

「周産期医療の質向上研究」への期待と要望 ～参加対象施設代表者へのメール・電話調査～



東京女子医科大学母子総合医療センター
周産期研究事業支援室
西田 俊彦

周産期医療の質と安全の向上のための研究

【背景】

多施設共同型介入研究の実施・運営には、

- ① 対象施設から、どのくらい参加希望があるか？
 - ② 研究の内容が、対象施設のニーズに合っているか？
 - ③ 参加必要要件は、対象施設にとって、妥当なものか？
- といった情報を集める必要がある。

そして、これらの情報に基づいて、研究内容を適宜調整し、研究参加の障壁を最小化することが必要不可欠である。

周産期医療の質と安全の向上のための研究

【目的】

「周産期医療の質と安全の向上のための研究」の計画段階で、研究の適切な実施に必要な情報について、探索的に収集する。

【調査対象】

全国総合周産期センターNICU（平成23年3月現在，83施設登録）の代表者 82名（東京女子医科大学を除く）

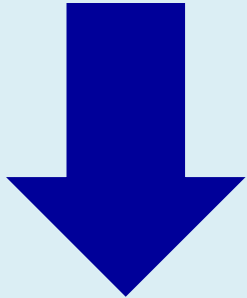
【方法】

- ・メールでの質問票調査（多肢選択式）
- ・電話での半構造化インタビュー

周産期医療の質と安全の向上のための研究

【調査の流れ】

メール調査



電話調査

＜多肢選択式＞

研究の認知、参加希望、参加要件、
研究費使途希望（必要性）

＜オープンクエスチョン＞

- ・ 研究参加の障壁
- ・ 診療の質向上のための問題意識
- ・ 施設や地域の個別的事情の聞き取り

周産期医療の質と安全の向上のための研究

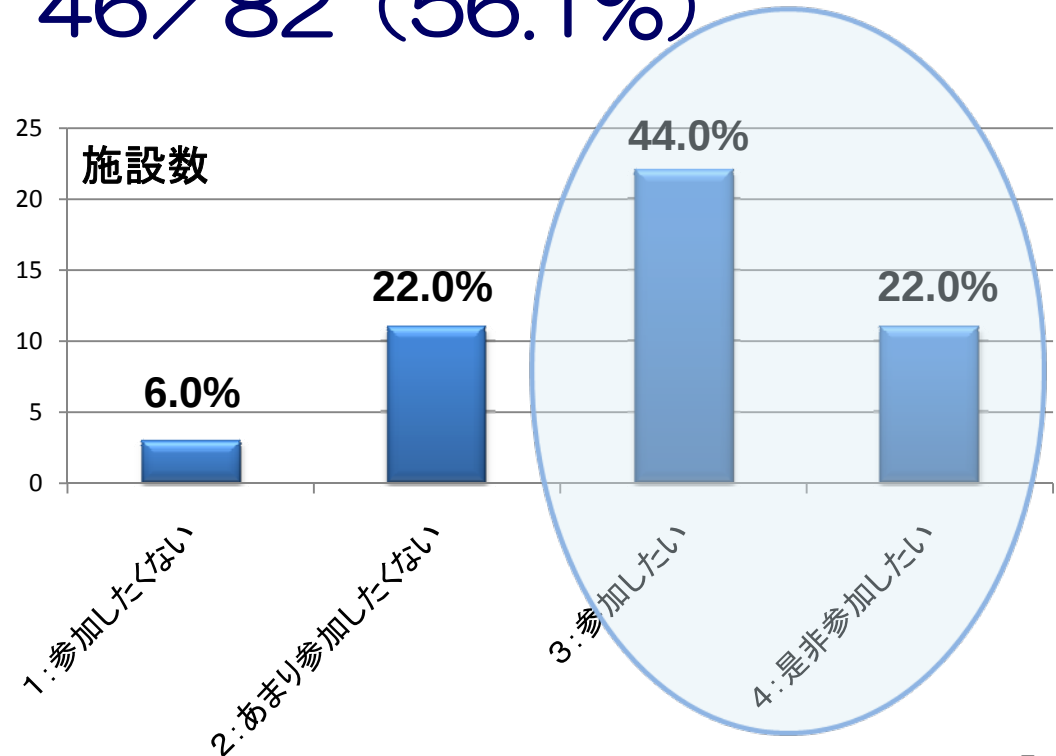
【結果】

メール回答数 50/82 (60.1%)

電話回答数 46/82 (56.1%)

1. 参加希望

希望あり 33/50
(66.6%)



周産期医療の質と安全の向上のための研究

【結果】

2. 研究の認知

知っている 33/50
(83.7%)

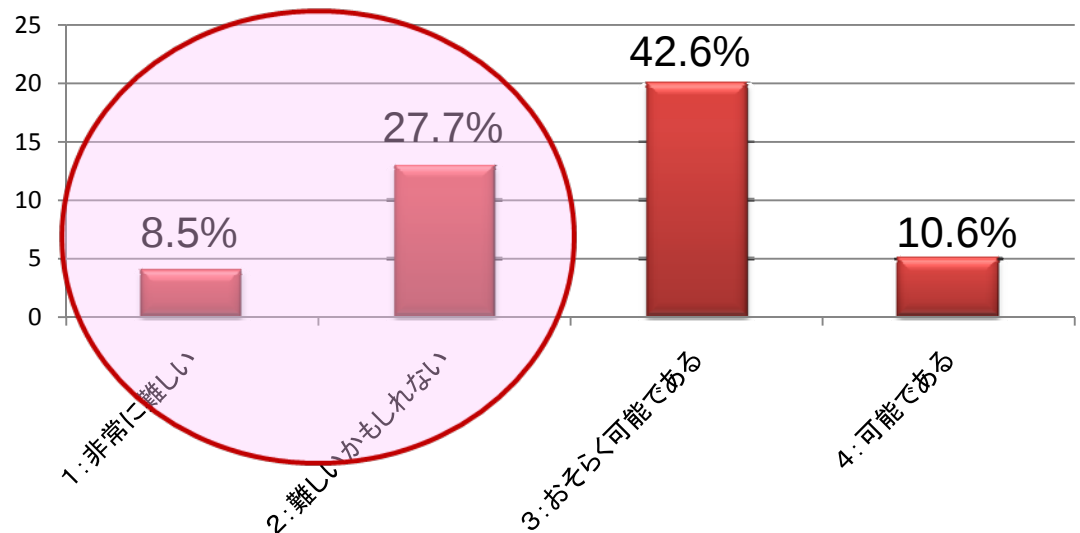
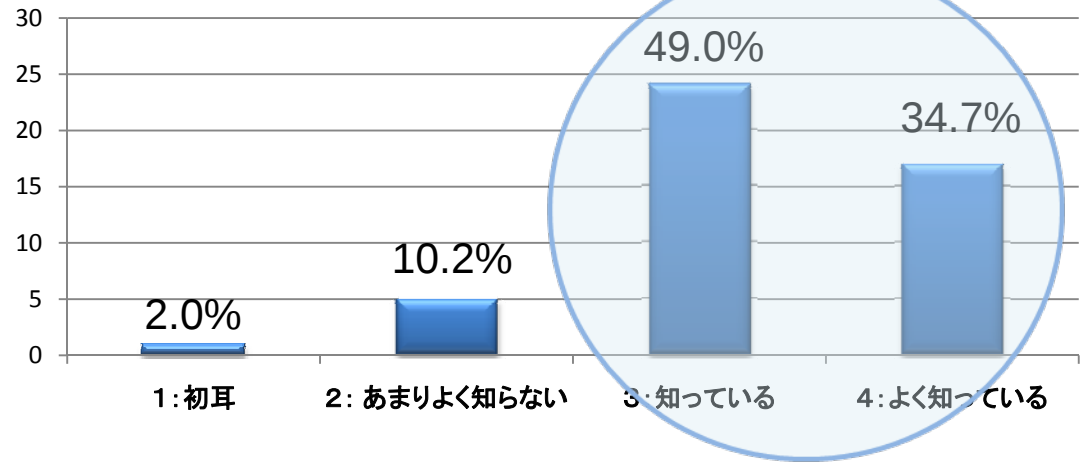
3. スタッフ参加

（産科・看護師）

難しい 17/47
(36.2%)

※ 3月の時点では、産婦人科医の
参加も、要件に含まれていた

施設数

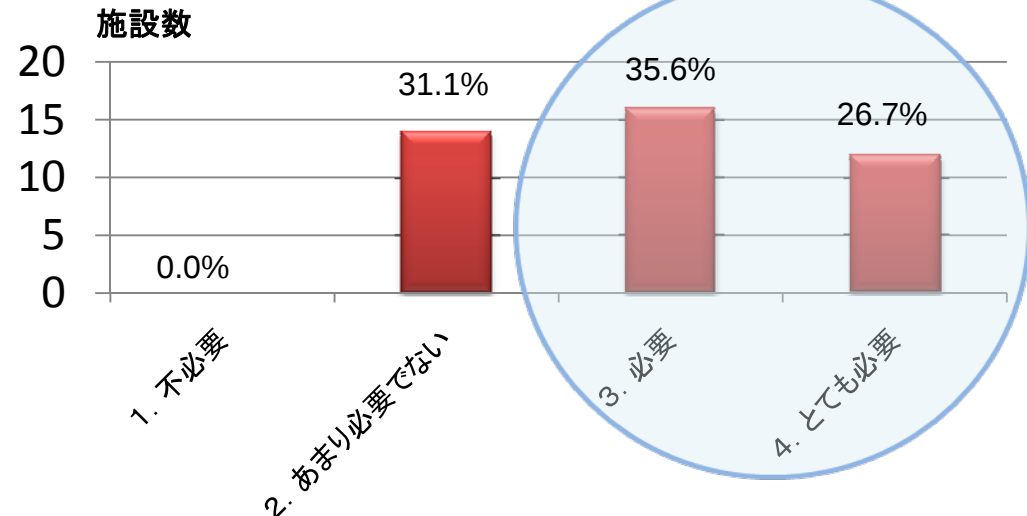
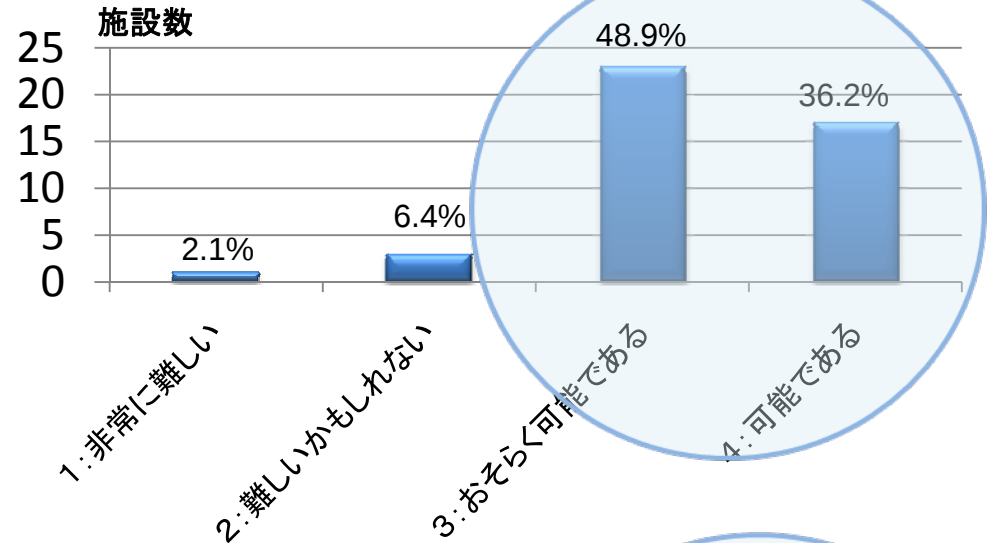


周産期医療の質と安全の向上のための研究

【結果】

4. 倫理審査
可能 40/47
(85.1%)

5. データ入力支援
必要 28/45
(62.2%)

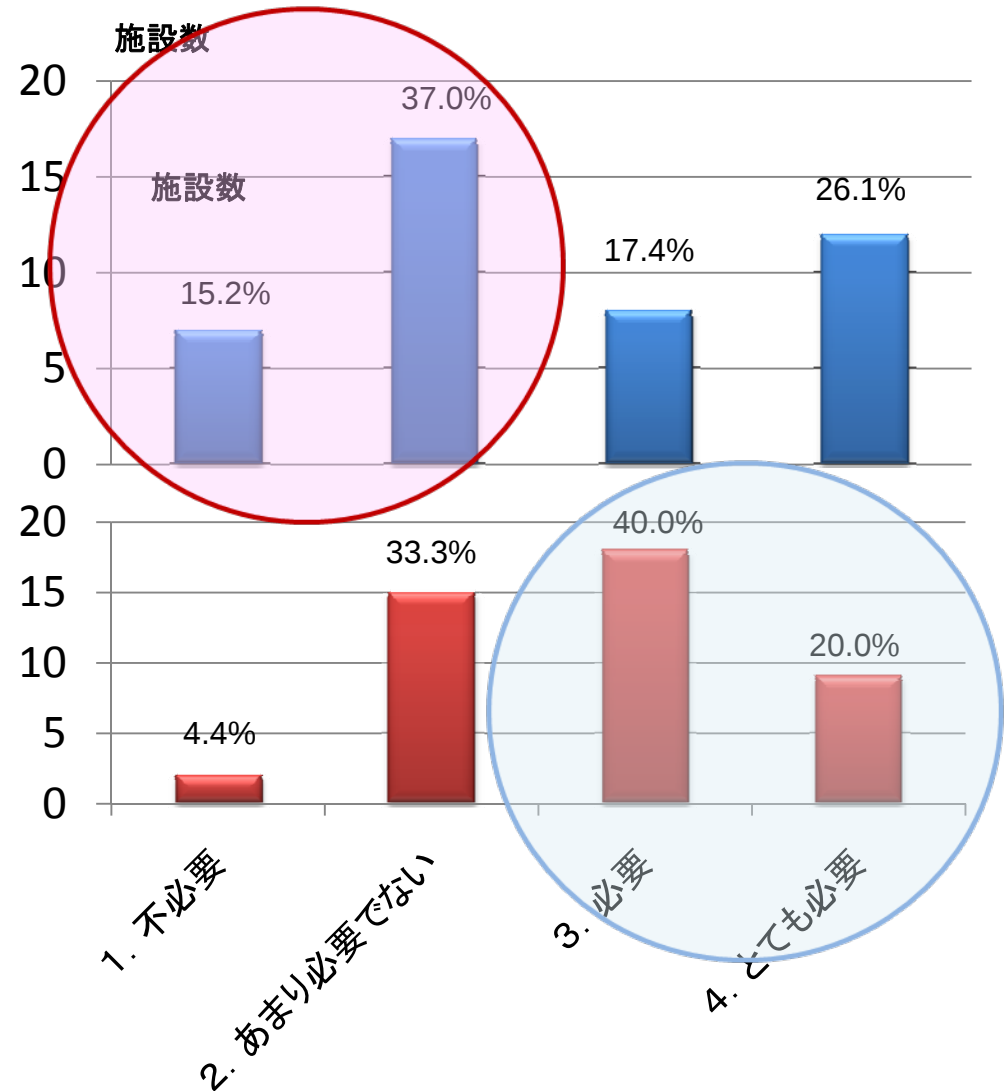


周産期医療の質と安全の向上のための研究

【結果】

6. 心理士派遣
不必要 24/46
(52.2%)

7. 消耗品等購入
必要 27/45
(60.0%)



周産期医療の質と安全の向上のための研究

メール調査【結果】まとめ

1. 回答率 約6割
2. 参加希望（回答者） 2 / 3
3. 研究知っている 8割強

<参加要件>

4. 産科医や看護師の参加、難しい 1 / 3強
5. 倫理審査はあまり問題なし（85%）

<研究費使途>

6. データ入力支援必要 6割強
7. 心理士派遣の必要、ばらついた（不必要、5割強）
8. 消耗品購入必要 6割強

周産期医療の質と安全の向上のための研究

【結果】＜本研究プロジェクトに期待すること＞

- ・ 主治医の方針に差あり、標準化を期待
- ・ NRNデータ活用
- ・ NRNデータのフ
- ・ 診療のチェックを希望
- ・ 客観的に診療を見
- ・ 自施設の診療に
- ・ 他の施設と連携を
- ・ 人材育成
- ・ データ入力支援に期待

施設内治療方針
の調整・標準化

改善の手がかり

診療のチェック
希望

交流に期待

周産期医療の質と安全の向上のための研究

【結果】＜自施設の診療のレベルアップ上の課題＞

マンパワー不足
(Dr・Ns・心理士)

連携
院内他科との協働
地域ネットワーク

診療上の弱点分野

物理的スペース
機器、etc

- 産科管理が予後に大きく影響（FGR多い）

【結果】＜本研究参加への課題・支障＞

- ・効果が期待できない机上の空論
- ・研究が漠然と
- ・研究の意義、
- ・人の確保が課
- ・常勤3名。出張無理

研究内容への疑問

スタッフの意欲

人手不足・人事の都合

- ・新しい取組みが勤務状況を厳しくしない配慮が必要
- ・時間外活動が出てくるので、motivation高める必要あり
- ・データ登録心配（既存電子カルテとNRNデータ連動の調整）

周産期医療の質と安全の向上のための研究

【最後に】

- 1.メール・電話調査を通じて、参加施設代表者の声に耳を傾け、意見を伺った。
 - 2.本研究プロジェクトの実施に当り、内容に関する伝達が不十分であると感じた。
 - 3.研究プロジェクトに対する期待と同時に、スタッフへの負荷を危惧する代表者が多かった。
- よりよい臨床研究の実施に向けて、プロジェクトの枠組みの中で、各施設の実情に合わせた支援の提供を行っていききたい。

周産期医療の質と安全の向上のための研究

本調査にご協力いただきました
総合周産期センターNICU責任者の
先生方に深謝致します